

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502405		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30 (電話) 011-863-8812		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	2日			
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	17人	常勤	13人,	非常勤	4人,	常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート壁式 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000	円	その他の経費(月額)	水道光熱費:18,000円 暖房費(11～3月):6,000円		
敷金	有()	円	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	400	円	昼食	400	円
	夕食	500	円	おやつ	100	円
	または1日当たり		円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	7名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クラーク病院・北楡病院・にひら歯科・紺野整形外科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に開設した「グループホーム こもれび」は、認知症ケアには良好な住環境が欠かせないとする研究者の意見を参考に、プライバシーと快適さに配慮した居住空間になっている。中庭の吹き抜けなど、採光のとり入れに工夫があり、1階のユニットは和を、2階のユニットは洋を基調とした壁紙や家具類を配置し、趣きを異にしている。病院系列の介護施設で得た良質のケアを少人数の暮らしに活かせるよう、法人総合施設長、管理者はグループホーム開設当初から関わり、きめ細かな対応を実践してきた。6年が経過し介護度が重くなった利用者もいるが、職員は個人のやりたいこと、できることを一緒に探しながら、その人らしく、安心して過ごせるよう支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価を通して外部からの視点や気づきなどがあり、それらを業務に活かし、サービスの質の向上に役立っている。利用者の重度化への対応や日常での変化を見逃さない健康チェックなどを継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を作成するに当たり、申し送り時に項目を分けて話し合い、管理者、計画作成者が中心になってまとめ、職員には閲覧で確認した。職員は自己評価の機会を普段のケアを見直す契機と捉えている。次回の自己評価を実施する際には、十分な時間をとり職員間で意見を交換するなど、評価の認識が深まるような取り組みを考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月ごとの運営推進会議では、ホームの現状や行事を報告し、意見交換をする中で些細な事もホーム運営に活かすように努めている。自己評価・外部評価の結果も報告している。一人暮らしの住民が多いとの情報をもとに、地域包括支援センターとの協力で、認知症についての「勉強会」をもち、住民にも参加を呼びかけ一緒に学んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には、意見を積極的に聞き出すように努めている。行事への参加を呼びかけ、その中で出された意見は運営に生かすよう、前向きに捉えている。要望や苦情があった場合は法人の月例会で対応を話し合い、各ユニットで取り組み改善を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会のお祭りや盆踊りなどに参加し、地域神社の子供神輿にはお菓子を配るなど、行事への参加を通して子供達との交流を楽しんでいる。近くの住民がボランティアとして、毎月訪問し、趣向を凝らした楽しみもある。また、小学校児童の緊急避難場所として「子供110番」に加盟し、地域貢献にも努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住みなれた地域で、家庭的な雰囲気の基、専門スタッフと生活を共にすることで認知症の症状が緩和されその人らしい生活をする」という、開設当初からの理念に沿い、利用者の能力を引き出すケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲げ、「重要事項説明書」にも法人の理念と併せて記載し運営方針を周知している。普段の暮らしの中で利用者の力が最大限に引き出されているかを、管理者と職員は申し送りやカンファレンス等で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りや盆踊りなどに参加し、地域神社の子供神輿にはお菓子を配るなど、行事への参加を通して子供との交流を楽しんでいる。また、小学校児童の緊急避難場所として「子供110番」に加盟し、地域貢献にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を作成するに当たり、申し送り時に項目を分けて話し合い、管理者、計画作成者が中心になってまとめ、職員には閲覧で確認した。職員は自己評価の機会を普段のケアを見直す契機と捉えている。	○	次回の自己評価を実施する際には、十分な時間をとり職員間で意見を交換するなど、評価の認識が深まるような工夫に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月ごとの運営推進会議では、ホームの現状や行事を報告し、意見交換をする中で些細な事もホームの運営に活かすよう努めている。外部評価の結果も報告している。一人暮らしの住民が多いとの情報をもとに、地域包括支援センターとの協力で、認知症についての「勉強会」をもち、住民にも参加を呼びかけ一緒に学んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の総合施設長、ホームの管理者は市や区に出かけ、事務的な報告の他にオムツ支給の相談、介護認定など、それぞれの担当者と話し合っている。また、市・区主催の研修会には職員も参加しサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年に4回、行事などを載せた広報紙を発行している。また、担当職員が個人の様子を書き、献立表と一緒に毎月送っている。家族の来訪時には、小遣帳の確認、介護計画書の説明と承諾を得る中で、利用者の日常の様子も伝えている。	○	ホーム全体の報告に個人へのメッセージ欄もあるなど、紙面の工夫で毎月ホーム便りが発行できるような一考を期待したい。また職員の異動時には便りに載せて報告するような配慮も期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、意見を積極的に聞き出すように努めている。行事への参加を呼びかけ、その中で出された意見は運営に生かすよう、前向きに捉えている。要望や苦情があった場合は法人の月例会で対応を話し合い、各ユニットで改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはユニットごとに職員を固定し、運営者は馴染みの関係に留意している。異動や離職がある場合は、利用者が困らないように周囲の職員がサポートし、精神面にも配慮している。職員が辞める際に、利用者が花束を渡す場面作りをすることもある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は法人内部での研修を毎月行い、職員の育成に努めている。学びたいテーマや業務に必要な内容は年間計画に組み込み、隣接する法人のグループホームと相互に学び合い、ケアに役立てている。また、運動を取り入れたレクリエーションや認知症対応など、職員は段階に応じて外部研修に参加し、各ユニットで内容を共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市・区の「グループホーム管理者会議」には職員も参加し同業者と交流している。2年前に事例を発表をしたきっかけから、同地区のグループホームと勉強会や実習などを相互間で行い、サービスの質を高めるために継続して取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族の見学を勧め、来訪時にはゆっくり過ごして貰い、意向を確認している。また、事前に訪問し顔馴染みの関係を築き、安心して新しい環境に入れるように話し合いを重ねている。入居後は十分な声かけをして、他の利用者や生活環境にも馴染めるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は出来ることを頼み、特に若い職員は煮魚、煮物などの作り方を教わり、利用者の得意なことを聞きながら一緒に行っている。苦労話に共感し、食事やおやつ時、またテレビを一緒に見たりして利用者と共に過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や普段の会話から希望を汲み取っている。入居前の趣味を継続するために老人クラブに付き添い、個人の望みに対応している。また、伝えられない利用者には問いかけながら思いを確認し、職員間での情報を基に、それらを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を聞き、日々の介護記録を基に、一人ひとりの利用者の状況を把握して計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の来訪時に説明して署名を得ている。遠方の家族には郵送し、来訪時に説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月見直しを行い、変更がなくても家族に毎月送付して署名を得ている。介護計画に変更があった時は、手紙を添えるようにしている。家族の希望で、郵送をしないで来訪時に説明して署名を貰う場合もある。入退院、認知症の進行、精神面や健康面で状況変化があった時は、随時見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、事業所での点滴対応なども行っている。車椅子の利用者が、家族と外出する時などは、事業所の車で送迎を行う事もある。地域の認知症に関する相談に乗ったり、一人暮らしの住民の様子を民生委員に伝えるなどの地域活動も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状態が安定している利用者は、かかりつけ医に継続受診するなど、状況により医療機関を決めて貰っている。かかりつけ医がない時は、訪問診療時に専門医を紹介して貰い、職員が送迎したり家族に手紙を持参して貰うなど、医療機関と連携を深めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急性期における医療機関との連携、看取りについてなど「重度化した場合の対応にかかる指針に関する同意書」を作成しているが、利用者全員の家族の署名はまだ取っていない。現在、看取りを行う方針で、看取りに関する書類を作成中である。	○	重度化や看取りに関して利用者や家族と話し合い、現在作成中の看取りの書類と重度化した場合の対応についての書類に全員の署名をもらい、方針を共有していく事を期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを損ねないように、「～しちゃ駄目」など、禁止の言葉は使わないように配慮している。個人記録は事務所で保管し、利用者の前で記録する時は、ファイルに綴じて内容が見えないようにするなど、取り扱いには充分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話の中で意向を汲み取り、利用者一人ひとりの思いが叶えられるようにしている。「床屋に行きたい」など、外出希望にも可能な限り直ぐ対応するようにしている。直ぐ対応出来ない時は、いつ外出できるか具体的に話して納得して貰うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き入れながら、3～4日毎に職員が交代でユニット毎に献立を作成している。野菜の皮むき、野菜を切るなどの作業を手伝って貰ったり、畑から一緒に野菜を収穫して調理をするなど、楽しみを持って食事が出来るように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を目標に、利用者の希望に応じてゆっくり入浴できる様に配慮している。利用者が希望すれば、毎日入浴する事も可能である。異性介助は、利用者の意向を確認し嫌がる利用者に対しては、同性介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、モップがけなど利用者に応じて役割を持つ事で、張り合いが持てるように工夫している。外食に出かけたり、事業所でバイキングを開催したり、ボランティアの方のフラダンスを見学するなど楽しみを持って過ごせるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、週1回位の散歩や買い物、受診後にお茶を飲んだりと個別の対応にも心がけ、外出する機会を作っている。車椅子の利用者も、玄関で外気浴や日光浴を行い、外気に触れる機会を大切にしている。	○	夏季などは、天候や利用者の状況に応じて、できるだけ多くの散歩や外出ができる様に工夫するよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠する事なく、玄関ドアやユニットドアに、チャイムやセンサーをつけて、利用者の外出が分かるように安全面に配慮している。利用者が外出しようとした時は、さり気なく声かけして一緒について行くなど、利用者の思いを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一法人の、隣接している事業所と合同で消防署の指導のもと、日中と夜間を想定しての避難訓練を年2回実施している。消化器訓練などの講習には、地域住民にも声かけをして一緒に訓練を行うなど、地域との協力体制も整えられている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、定期的に法人関係の管理栄養士に栄養チェックを受けている。水分摂取量は、利用者全員について記録をして水分管理をしているが、食事摂取量に関しては、定期的な血液検査で健康管理を行い、必要な利用者のみ記録している。	○	現在、水分、食事摂取量の記録用紙の書式を検討中との事なので、今後は、水分、食事摂取量ともに毎日記録して健康管理が更に充実するよう期待したい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂などの共有部分は広々とした空間になっており、廊下やさまざまなコーナーにソファが配置されていて、利用者が思い思いの場所でゆったり過ごせるように工夫されている。季節感のある装飾品や、写真、利用者の作品などが飾られ、利用者が自宅の様に落ち着いて安心して暮らせるような配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドや椅子、箆笥など使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれていて、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。家族の写真や装飾品など、一人ひとり個性のある居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。